

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970400170		
法人名	医療法人景雲会		
事業所名	グループホームあずさ		
所在地	笛吹市春日居町国府436		
自己評価作成日	平成21年12月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成22年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者、一人ひとりのペースで暮している。 ・ホーム内でゆったりと過ごしている。 ・近隣の方々と交流の場を少しづつ広げていく努力をしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・館内 室内には季節を感じさせる工夫した飾り物が多く、利用者の心を和ませる環境づくりがされている。 ・週2回利用者が献立を立て、その日には職員が見守る中、全て調理を行っている。台所にエプロンをした利用者が職員と手際よく作業をしていた。、玉葱を刻む音・ハンバーグを型どっている音・匂いが館内に漂って、あたかも自分の家でお母さんが料理をしているという光景でした。 ・利用者一人ひとりに添った部屋づくりがされている。大きい仏壇が入っていたり、しばしば訪れる家族がゆっくり面会できる環境や家族が泊るためのベット等が整えられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を入口に掲示し、職員は理念をネーム裏に記入し、いつでも見て、実践出来るようにしている。	理念は玄関・事務所に掲示されている。職員はネームの裏に書かれた理念をいつでも見て、意識づけをしている。月1回のカンファレンスの時などに、職員間で話し合いの機会を持ち実践出来るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時、挨拶を交したり、「あずさ便り」を近隣へ配布している。	毎月手作りの便りを5～6軒の近隣へ配っている。一宮の中学生が職場体験に来たり、地域の「どんど焼き」に参加して楽しんでいる。地域柄、住宅が少なく、近隣に住む人達とふれあう機会が少ない。	地域住民との接点が少ないので、自治会等に入って事業所・利用者の理解をして頂くための努力を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティア等を招き、活動していたり、近隣に「あずさ便り」を配布し、認知症の人への理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況・入居者の様子など活動報告し、意見・助言・要望・指導をして頂き、サービスの実践に取り組んでいる。	年4回実施している。民生委員の方からの意見が積極的に出され、「どんど焼き」などの近隣の行事に参加するようとの意見から、事業所の中で待っているのではなく、こちらから積極的に行くという方向に変わった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢福祉課・包括支援センター職員との連絡は行っている。	顔を覚えて頂くよう努力している。	市町村担当窓口に対して連携がすくないとの事。認定更新の機会等に市町村の担当者へ、利用者の暮らしぶりやニーズを伝えて、連携を深める努力を望みます。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入口がロック式になっているが、職員は身体拘束をしないケアを実践している。	天気の良い日は入口の扉は開けている。車椅子の利用者が安全の為、Y字帯を使用することがあるが、入居時にリスクに関して家族と話し合い、納得と理解を得ている。スピーチロックに当たる言葉の一覧表を自己評価で毎日記入している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市町村連絡協議会等、県の研修会に参加し学んでいる。 職員は、虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度について、研修会・市町村連絡協議会に出席し、研修を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、十分な説明を行い、また、家族等からの不安や疑問点を尋ね、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを行うとともに及び面会時に意見・訴え等を聞き、要望に沿うよう努力している。	事務所前に意見箱を用意している。年1回無記名のアンケートを行い、意見・要望が出せる配慮をしている。出された意見・要望は職員間で話し合い、家族等にフィードバックして運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時や個々に職員の意見を傾聴し、意見の反映に努めている。	管理者と一緒に業務に入っているため、都度意見・要望等を聴くようにしている。管理者が返答できない組織間に関する事は、毎月1回のミーティングに於いて返答するように努めている。	組織が大きいため、なかなか意見が反映され難い場面もありますが、地域密着型サービスの特徴を理解し、利用者の実情を直に知っている現場の職員の意見を十分に聴き取り、運営に反映する事を期待いたします。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考えてくれていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には全員参加し、外部研修については、スタッフ全員が受けられる様、考慮している。法人の申し入れにより、質の向上を目指すため、研修を受けられるよう、勤務票を組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会研修に参加し、他同業者と交流している。 同業者の活動、取り組みを聞き、サービスの質の向上に努めている。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること・不安な事に耳を傾け、本人が安心出来るような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から不安な事や要望をききながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の両方の不安・要望困っていることを聞き、まず必要な事は何かを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護しながら本人は何を望んでいるのか、暮らしを共にした関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、本人の状況・状態等を説明し、面会の少ない家族には、面会及び電話等増やし、本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の好きな事や行って来た事に対し、関係してきた馴染みの方に声をかけ、出来る限り来て頂くようにしている。	入居前に行っていた美容院に家族が連れていく人、詩を詠んでいた人に辞書を渡して漢字を引く、宗教の友達が来て勉強会に連れて行って帰る等、馴染みの関係が保たれるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の生いたちや性格をつかみ、お互いに支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じ家族の相談支援に努める。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思い、希望・意向の把握に努めている。	それぞれの変化の状況を報告し合い共有するように努めている。食事メニューを作成する時に、週2回本人の希望を入れて、職員が見守る中で、本人に作ってもらう支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・本人との日頃の会話から、生活歴・暮らし方等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームカンファレンスは月1回行ない、利用者等について話し合いを行っている。	各ユニットでカンファレンスを行い、月初めに合同カンファレンスで、全員が意見やアイデアを出して共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に各勤務にて記録しており、必要な情報は申し送りノートに記入し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況やニーズに対応し、移動美容室への送迎、購入したい物があれば一緒に付き添っている。 急変時、医療が必要時付き添っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支え、本人の力を発揮して、安全な暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等の希望を大切に、かかりつけ医受診、緊急時等適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時の家族の希望を重視している。希望があれば、かかりつけ医に家族がつれていく。薬等は当病院にある場合は、家族の希望で変えることもある。緊急の場合は看護師が付き添っていくが、通常は、家族に連絡してきてもらっている。	
31		○看護職との協働			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職に報告し、日常的に関わってもらっている。必要時受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院等、サマリー記入は報告を行ない、安心して治療出来るように、また、病院関係者と情報交換を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、本人家族に重度化した場合についての説明を行っている。また、入居後も状態の変化により家族の意向を聞いている。	本人や家族の意向を踏まえながら、医療が必要なとき以外は看取りも可能な事を入居時に説明している。急変時マニュアルに沿って同法人の病院で受診するが、対応できない場合は、主治医の指示で他の病院へ移している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、マニュアル作成している。 内外の研修に参加し、応急手当・初期手当の訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の避難訓練を実施し、入居者が避難できる方法を職員が身につける努力を行っている。	月1回レクリエーションを交えながら、「火事」ですよと言って、利用者が居室からどこに避難するのか実践して、体で覚えている。2階は敷地内の施設へ、防火扉を開けて避難する訓練をしている。	同敷地内にある施設の協力体制が整っているため、地域との協力体制は薄いようだが、地域住民の参加、協力体制を築いていく事も期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重している。 本人の誇りやプライバシーを損ねないよう、言葉遣いや語調には注意している。	プライドを傷つけないよう説明をしながら、対応している。本人の方からの強い言葉や、態度が出て来るときも、個性や人格を尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけ、話しかけを行ないコミュニケーション作り、信頼関係作りに努め、本人の思い希望を表出できるように努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の出来る事を行ってもらい、本人のペースに合わせた生活を送ってもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が選べる方は任せているが、出来ない方には介護員が出来るようにお世話している。 整容・洗面・整髪等も声かけ・見守りで行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りへの参加・食事準備・片付けは出来る方には働きかけ、一緒に行っている。	献立を立てる時点から参加して、利用者の好きなものをメニュー表に落として作ってもらっている。出来る利用者には、料理の準備、味付け、器を下げて洗う等、職員が見守る中で行っている。職員1名と一緒に食べている。	利用者と職員が、同じ食卓を囲んで同じものを楽しく食べることが大切だと、言われています。一緒に食べられる体制づくりを期待いたします。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居時、好き嫌い等を聞いており、食事量や水分量について、一日通して摂取出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕の歯みがきの声かけを行ない、口の中の汚れや臭いが生じないよう努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄に心がけ、失禁のある場合、時間誘導し声かけなどを行ない、自立にむけた支援を行なっている。	個人のチェック表を記入して、本人の排泄パターンを把握しトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて、入浴してもらっている。	毎日入浴をする人、週2回～3回入浴する人、入浴を拒否する人等、個々の希望に添った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間照明・騒音等に注意し、安眠する事が出来る様支援している。また、その時の状況に応じ休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事務所内に使用している薬の目的・用法・用量について、一覧表を貼っている。本人のおくすり手帳等がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に合わせた役割を行なってもらい、達成感を持ってもらうように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩、外気浴等レクリエーションにて実施している。普段行けない場所に行事で、皆と一緒に出掛けたり、家族と共に外出したり、出かけられるよう支援している。	多数で買い物に行くのではなく、少数で順番に行っている。外気浴を兼ねて近所への散歩を実施している。敷地内にある病院への訓練に数人参加している。家族の協力でお食に出かけたり、正月に外泊している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度を管理している。本人が使いたい時に渡し、小遣い帳に記入して、出来る方には使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出により、自宅へ電話をしている。また、手紙を書ける方には書いて投函してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感を採り入れた歌、絵などを貼り、植木等の鉢、花を飾ったりし、居心地よく過ごせるように工夫している。	共同のフロアには季節感を感じさせる歌詞・絵等が飾られている。敷地内の花を採って玄関や居室に飾り季節感を楽しんでいる。台所で利用者と職員が料理している音・香りがフロアに流れ、家庭的な雰囲気が感じられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファ、椅子等を置き、思い思いに過ごせるような居場所作りに心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族に使い慣れた家具等を持ち込んでくれる様伝えている。	窓が広く日差しが入り居室が暖かい。タンス、仏壇、家族の泊れるベット、机など本人家族と相談して使い慣れた物、好みの物を持ちこんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の出来る事を行なってもらったり、リハビリを受け身体機能を維持し、安全な生活を送れるように努めている。		